

# まなびやまと



No.25

平成26年(2014年)3月  
大和市教育委員会

## 友だちのことを考えよう

大和市立光丘中学校  
大和市立深見小学校

11月21日(木)、深見小学校で、4・

5・6年生を対象とした、光丘中学校の生徒会本部による「友だちのことを考えよう」という会が行われました。中学生から小学生への問いかけのもとに、友だちとの関わり方について共に考えることを目的としています。この会を前に、光丘中学校の生徒会本部の7名は、神奈川県警察本部生活安全部少年育成課少年対策係の方々の指導を受け、どのように会を進めたらよ

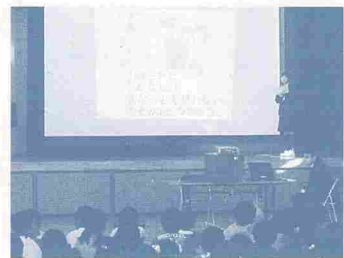


いか準備をしてきました。

当日、中学生は、体育館に集まった小学生に、無視や暴力の場面が盛り込まれた「考えよう やって良いこと 悪いこと」と同級生のあいだで「という紙芝居を、スクリーンに映しながら紹介しました。「おはよう」と挨拶したのに無視されたらどんな気持ちになりますか」「いやなことをされたとき、みなさんだったらどうしますか」などの紙芝居の話に沿った問いかけに対し、小学生は友だち

と相談しながら考えていました。

会の最後に「やって良いことが悪いことか、判断する力をもつこと」などの、楽しく学校生活を送るために大切な三つのことを、全員で復唱しました。小学生は「自分や、友だちの良いところ



を探してみようという話が心に残りました」「友だちの良いところが見つければ、仲間が増えるような気がします」「強い意志と思いやりの心をもとうという話を聞いて、みんながこのような気持ちになった。中学生は、この会の準備を通して「困ったことは自分で解決するものだ」と思っていました。だが、他の人に伝えていくことも大切」「自分の気持ちは言わないと相手に伝わらない」などと考え方が変わってきたということです。「話の内容を分かっても、楽しい生



活を送ってほしいです」と小学生を優しく見守っていました。

## 大和市いじめ・暴力行為防止ポスターコンクール表彰式

大和市教育委員会・指導室

10月22日(火)

に大和市役所で「大和市いじめ・暴力行為防止ポスターコンクール」の表彰式が行われました。同コンクールは、児童・生徒が楽しい学校生活を送ることができるよう「してはいけないこと」を自覚し、思いやりの心を育むことをテーマに、教育委員会が主催したものです。小学校低学年・中学年・高学年・中学生の各部の優秀作品に選ばれた4名が表彰を受けました。南林間中学校3年の柴田亜美さんの作品には「人を傷つけてあなたが得られたものは何ですか?」という問いがあるなど、どの作品からも、仲間を大切に考えているメッセージが伝わってきました。



## 地域に伝わる お囃子を体験

大和市立福田小学校

12月11日（水）、福田小学校の3年生は、山ノ手田中囃子保存会の方々から福田の地域に伝わるお囃子について学びました。社会科の「ま



ちの人たちが受けつぐ行事」という学習の一端として行われたものです。

保存会の方々によるお囃子の笛や太鼓の音が体育館に響き渡ると、肌寒かった空気が一変し活気づきました。そこに登場したお獅子の生きているかのような動きや、ひよっとこのユーモアのある踊りに、児童はすっかり釘づけになっていました。

その後、保存会の保田喜光さんから「お囃子は、お祭りの雰囲気を感じ上げるための笛や太鼓を使った音楽のことです。田中囃子は戦国時代から受け継がれています」という話

を聞きました。

続いて、児童は保存会の方々の指導のもと、太鼓や鐘をたたいたり、お獅子を動かしたり、踊りをまねたりと、実



際に体験をしました。児童は「お獅子の顔の部分が木でできていて、動く仕組みがあることを学びました」「太鼓や鐘をたたいて、リズムが楽しかったです」と笑顔で話していました。「福田に430年も受け継がれているお囃子があるなんてすごいと思いました」と感想をもつ児童もいました。

児童は普段は見たりさわったりすることのできない踊りや道具に興味をもち「ひよっここの踊りは考えたのですか」「曲は何曲くらいあるのですか」「太鼓は何でできているのですか」



と、次々と質問をしていました。保存会の方々の「昔から伝わってきた大切な宝物なので、頑張つて活動して伝えていきたいです」という思いが、児童に伝わったようです。

## 工夫がいっぱい 自動車づくり

大和市立桜丘小学校

11月25日（月）、桜丘小学校の5年生が、社会科の「自動車会社をたずねて」



という学習の一環として、日産自動車株式会社の方々に講師を迎え、自動車工場の工夫について学びました。日産自動車は、小学生にもづくりの楽しさと、品質の良い自動車を効率よく生産するための工夫を、体験を通して伝える「日産モノづくりキャラバン」というプログラムを実施しており、これを活用したものです。

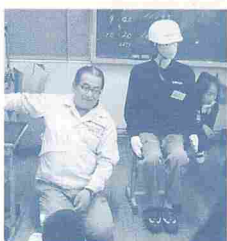
初めに、数名のグループで、流れ作業によって小さな模型の自動車を

作る実習を行いました。そこで、自分の役割を、慎重に確実にこなしていく児童に「組み立てにかかる時間を短縮させよう」という課題が出されました。児童は機の配置を変えたり、手が空いている人が組み立ての手伝いをしたりするなどの考えを出し合い、各自の作業工程を改善することで、時間短縮を達成しました。



次に、板金やインパクトレンチによるボルト締めなどの実習を通して、けがをしないように安全に作業をするための工夫を学びました。講師の「どのようなことに気を付けて自動車を作っているでしょう」との問いに、児童は「車体に傷をつけない」「肌の露出を避ける」などと答えていました。作業をする人は、ヘルメット、目の保護眼鏡、つま先を強化した安全靴などを身に付けていることを学びました。

児童は実習を通して「いろいろなところで工夫してすごいなと思いました」「一つ一つ地道な作業をしていることを知りました」と話していました。



## 開校以来受け継ぐ伝統 校内駅伝大会

大和市立上和田中学校

12月18日（水）、上和田中学校で、

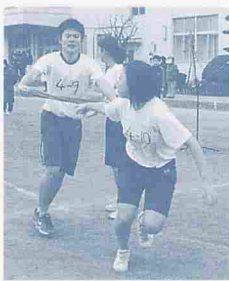
開校以来続いている校内駅伝大会の第34回大会が開催されました。この大会は「取り組みを通して体力の向上を図る」「たすきをつなぎ渡すことを通して、クラスの団結、協力等を培う」「練習に励み、自己記録の向上を目指す」という目的で行われています。総合優勝したクラスには「堀内杯」という、開校当時、保健体育の教師で陸上競技部の顧問であった堀内晴夫先生由来のカップが授与されます。大会はタイム走と駅伝の2部構成になっており、生徒はどちらかに出場し、学校の校庭から境川沿いのサイクリングロード、学校の敷地の外周と続く約1400メートルのコースを走ります。そのコースの安全を、交通指導員とPTAの方々が見守ります。当日は多くの保護者も応援に駆け付けました。



ストタイムを目指し力走しました。続いて、1チーム20名のクラス対抗の駅伝を行いました。1番走者として走り終えた3年生は「緊張しました。クラスの期待に応え頑張ろうと思いましたが」と話していました。チームの仲間を



今か今かと待ちながらウォーミングアップをする走者からは、全力を尽くそうという意気込みがあふれていました。生徒は、これから走る仲間には「自分のベストを出してね」走り終えた仲間には「すごい。速かったね」と声を掛け合っていました。1年生は「クラスみんなや先生の応援が聞こえ、頑張れました」「抜かしたり抜かされたりしました。でも楽しかったです」と話していました。応援している3年生は「今日の朝も、クラス全員で練習しました」とクラスで



頑張ってきたことを話していました。12チームの順位が

次々と入れ替わる模様を見守る保護者の方々は「中学生の走りは迫力があります」「毎年来ています。駅伝大会は、1年生から3年生までが競えるところが楽しいです」と話していました。



1年1組のチームが全校1位でゴールし、表彰式で横瀬校長先生から「堀内杯」を受け取りました。アンカーを担った生徒は「走っているときは前しか見ていませんでした。クラスで放課後も練習してきました。来年も頑張りたいです」と話していました。担当の大森一美先生は「一人一人真剣に走っていました。今日までの練習の積み重ねが立派でした」と感慨深い表情で話していました。

## 地域の方に感謝を込めて

大和市立緑野小学校

11月5日（火）、緑野小学校で、「感謝のつどい」が行われました。安全に登下校できるよう毎朝見守ってくださいている地域・保護者の方々、全校児童が感謝の気持ちを伝え

ると共に、一人一人が安全を考えることをねらいとしたつどいです。当日は、14名の交通ボランティアの方々も参加されました。



初めに堀田校長先生から「地域に知っている人が増えると毎日安心して過ごせます。交通ボランティアさんの顔をぜひ覚えてください」とお話がありました。続いて交通ボランティア代表の小川正蔵さんが「これからも安全に気を付けて登校してください」とお話をされました。

代表の児童は「いつもありがとうございます。『おはよう』と挨拶をしていただく笑顔になりました」と感謝の言葉を述べ、1年生はお礼の手紙をボランティアの方々へ渡しました。最後に全校で手話を交えた「虹」を合唱し、和やかな雰囲気ですごいを終えました。



おらが学校

# 「なつみさつまつ」

大和市立引地台小学校

引地台公園のすぐ近くにあり、晴れた日には、屋上から富士山が見えます。創立30周年を迎え、大和市で一番新しく、児童数336名、15クラスの小規模な学校です。地域・保護者の方々の協力による登下校の見守り活動などが盛んで家庭的な学校です。職員も情熱いっぱい、子どもたちのために頑張っています。

## にじいろ活動

1年生から6年生の学年を越えた「にじいろグループ」を作り、集団での遊びやお祭りなどの活動を通して、助け合ったり教え合ったりすることで、思いやりや優しさをもてる子の育成に努めています。高学年がリーダー会議を何回もち、遊びやお祭りなどの計画を話し合い、休みにドッジボール・長縄跳びなどをして遊んだり、「にじいろ祭り」でお店を出したりして交流を深めています。

## あいさつ運動

気持ちの良いあいさつとはどんなあいさつか全校児童で考えて、進んであいさつしようとして取り組んでいます。前期と後期にあいさつ運動の期間を設けています。前期は、クラス全員が自分から20人にあいさつでき

たら「あいさつの虹」に学年の色の花を一つ飾る活動をし、7色の素敵な虹ができました。後期は、同じように「あいさつの富士山」に7色のシールを貼り、日本一きれいな7色の富士山ができあがることを目指します。あいさつが広がる引地台小です。



## 音楽交流会

歌声が響き合う学校作りを目指し、音楽朝会を設定し、音楽に力を入れてきました。互いに認め合う心を育てるために、2年前より、他学年の発表を聴き合う音楽交流会の時間を設けて、前期・後期に3学年ずつ音楽発表会をしています。子どもたちは一生懸命に練習し、元気な合唱と、心を合わせた合奏をし、体育館が素敵な笑顔でいっぱいになりました。

## 読書活動・家読(うちとく)

週3回の朝読書、保護者ボランティアによる読み聞かせ・すばなし、読書朝会での大型絵本読み聞かせに加え、家族で一緒に、1日10分以上読書をする家読に取り組んでいます。家庭で一緒に読書をし、感想を話し合うことで家族のコミュニケーションが深まり、本好きの子も増えてきています。図書室には、いつも読書する子どもたちがたくさんいます。

# 三十二文字に込めた思いの交流

大和市立上和田小学校

9月13日(金)、上和田小学校の6年生は、県立大和南高等学校の古典鑑賞の授業を選択する3年生と、「贈答歌」による交流をしました。高校の永吉寛行先生が小学校で短歌の授業を行い、小学生が作った短歌に高校生が短歌で返事(返歌)をするというものです。児童は高校の文化祭を訪れ、会場の壁に掲示された自分の作った短歌とその返歌を見つけ、嬉しそうに読んでいました。「楽しみはおうちに帰ったそのときにひえたおへやでアイスシャリシャリ」という小学生の短歌に「水着着て海で食べるよかき氷ひと味違ったおいしさ感じる」と高校生。小学生は「自分は部屋の中の出來事を書いたけど、高校生は海のことにつなげていたのですがだと思えました」と話しました。「笑いこえ教室いっぱいひびいてるあとなんかかげつ聞こえるのかな」という小学生の短歌に「たくさんさんの友人たちと笑った日思い出胸に新たな道へ」と高校生は先輩ら



しく返歌を送りました。小学生の短歌を読んで高校生は「小学生の短歌は明るく、純真無垢だと思いました」と笑顔で話してくれました。

## 先生も理科の実験

大和市教育研究所

大和市教育研究所は、小学校教員の理科教育の指導力向上を図るため、学校への訪問研修を行っています。今年度は6校で、専門家や教育研究所の指導員が講師となり、各学校の希望する内容に沿った研修を実施しました。「水溶液の特徴」「流れる水のはたき」などの実験や、メダカやチョウなどの観察を通して、児童が理科に興味関心をもてるような指導方法を学びました。受講した先生は「ブドウを使つてのリトマス紙作りは、子どもたちが喜ぶと思いました」「授業では、児童一人一人に実験器具を扱う機会を作ることが大切だと思えました」と話していました。



「まなびやま」とは、開かれた教育行政の一環として、保護者・市民・教職員向けに、本市における各学校の教育活動や教育委員会の事業を、具体的にお知らせしようとするものです。お読みいただき、ご意見・ご感想をお寄せいただければ幸いです。  
〈お問い合わせ〉大和市教育委員会  
指導室 260015210 教育研究所 260015213